

人 チーム 制度

【父親として】1年目と2年目の変化



東洋技研コンサルタント(株) 総務部 外谷和之さん

今回ご紹介するのは東洋技研コンサルタント(株)で総務の仕事に携わる外谷和之さん。2020年に第一子のご誕生され、現在、1歳半のお子さんを夫婦共働きで日々奮闘されています。

プロフィール

氏名 : 外谷和之  
 所属 : 総務部  
 勤続年数 : 3年  
 資格 : 第一種衛生管理者  
 居住地 : 大阪府  
 家族構成 : 夫(30) / 妻(30)  
 長女(1)  
 勤務状況 : 通常勤務

これまでの経歴を簡単に教えてください。

2018年9月に中途入社で事業推進部に配属後、2021年6月より総務部に異動しました。異動前は、近畿地方整備局・高速道路会社等の営業活動をしていました。

現在は総務部において人事労務全般を担当しています。また、社内の衛生委員会や情報システム管理委員会に参画し、快適な社内環境整備に努めています。

2020年に第一子(長女)が誕生し、妻の職場復帰に合わせ、2021年4月より幼保連携型認定こども園に娘を預けています。

夫婦間で家事・育児の分担はどうされていますか?

産後の1年間は、妻が育児休暇を取得し、妻の職場復帰に合わせて娘をこども園に預ける生活になりました。朝は私が自分の身支度を整え次第、娘(まだ寝ほけまなこですが、、、)の身支度と簡単な朝ごはんを用意してから私は家を出ます。こども園へのお迎えは、勤務時間や通勤距離の関係で妻の担当としています。

帰宅後は妻が娘の晩御飯を済ましてくれているので、ここからは私が娘をお風呂に入れたり疲れて寝るまで一通り遊び倒します。これは楽しいひと時であり、日々出来る遊びが増えてきて娘の成長を感じられる貴重な時間です。

(2021年10月 現在)

1年目(奥様の育児休暇中)と2年目(夫婦共働き)に違いはありましたか?

1年目は、育児休暇を取得していた頑張り屋の妻に正直頼りっきりだったことを今になって反省しています。当時の私は、頭の片隅で育児はお母さんが中心となってやるものだという固定概念がありました。実際、私の父親も仕事一筋であり日々の生活は母親しか頭に浮かびませんでした。(もちろん私自身が父親となった今では父親の苦勞も年々感じていき、ここまで育ててくれた感謝の気持ちはあります。)なので、妻がどうしても手が回らなくなったときに“手伝う”ぐらいというスタンスだったと思います。

2年目に突入り妻の職場復帰・娘をこども園へ預ける生活環境に変わりました。そして私の考えが180度変わった出来事がありました。頑張り屋さんの妻が職場復帰して数か月後、育児と家事等の両立で体調を崩したことで分担調整を行いました。



一番大変だったのが娘の寝かしつけが全く出来なかったことです。自分が想像する以上に寝かしつけが大変で、試行錯誤しながら日々娘と奮闘した結果、今では娘から寝室に私を引っ張ってくれ、妻の体調も良くなりました。

最後に、建コンで働く皆さんに伝えたいことはありますか?

少し前までは“イクメン”という育児を積極的にする男性を特別視するような時代でしたが、令和では育児と仕事を両立して当たり前という時代が到来しました。私も前時代的な考え方でしたが、寝かしつけが出来なかった事や友人達も父親となって育児に奮闘する姿を見て、考えが変化し行動を変えました。

この記事を見た父親もしくはこれから父親になる人が育児に対して同じ、もしくはそれ以上に情熱を持っていただければと思います。そして建コン全体で育児への理解を深め、子どもたちの成長を支える想いを共感し続けていけば、明るい未来が待っているのかなと私は期待しています。

